



純性さと神の光輝で開かれる心で無私の奉仕をなさい。

純粹な心

神が私たち一人ひとりの内にいるとか、物や自然界の中に宿っているとか言うことが多いようですがジニャーナ・ヨーガでは違います。神はそれらをお造りにはなられ、維持の力も造られるともうそこにはいないです。もちろんそれらを含むすべてを包んでいらっしゃるでしょうが…。

造られた物象にそのものに有無が生じます。これは自動的に。ただし有無の意識ですから行動（行為）は生じません。自性と結びついた途端、行為が生じます。自性とは自らの持つ可能性力、生み出す力です。

神の創造により与えられた有の意識は性と結ばれ、どのような行為をしてくかは何によって決まるのでしょうか…。物象の姿形、名前が、色や匂いといった雰囲気は何によって生じるのでしょうか。

固定的で絶対ではないです。自性は反応するので固定的ではないです。

反応は何にするのか？それは、触れるものです。環境と、それから心（意識）です。

謙虚に与えられたという原点に還ると、それは光輝なるものです。感謝すべきものです。そうした神への礼のような心や、そういうのを感じる心のことを純粹というのではないのでしょうか。

そういうことを知ることができたきっかけがあった生を喜びに感じます。